

1面 巢鴨大鳥神社「酉の市」探訪記
今年は一の酉11月8日(木)・二の酉20日(火)

ASAHI BOOK PRESENT

2面 きりん堂よりのお知らせ

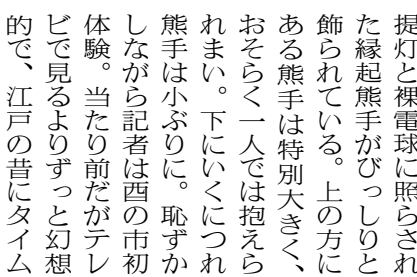
2面-4面 shoppin navi.
整体院 たばた/ヘアサロン AT/大学受験塾 秀門会/お弁当・お惣菜・すし 味千/そら整体院/メイク・ワン駒込霜降店/金券ショップ エム・チケット/健康美容室フラ

ワ-/美容室TBK 巢鴨ANEX店/かくれが 大黒庵/食彩 瑞祥/泉家タオル店/いぶき整骨院/学習塾 本駒会/鴨家ぶどう/燻製居酒屋くゆり

次号『北の手かわら版』睦月号は、12月30日(日)の発行予定です。



日の暮れかかる午後5時過ぎ、JR巢鴨駅を出て白山通りを左に向かう。5分ほど歩くと右手に提灯の灯りが見えてきた。巢鴨大鳥神社へつながる大鳥商店街だ。沿道にはびっしりと露天の屋台。たこ焼き、じゃがバター、チョコバナナ、肉巻きおにぎり、射的……。商店街の各店もこの日ばかりは特別態勢のようで、店先でフランクフルトを焼いたり、あつあつの帆立汁を出したりして賑やかだ。小さな子どもの手を引いた親子連れや、中学生とおぼしき子供の一団も多く、この日が地域



の人たちに待ち望まれていたことがよくわかる。時間が少し早いからか、人波をかき分けるほどの人混みではなく、ゆっくりに屋台を眺めつつ歩こうと、右手に神社の鳥居が見えてきた。「うわっ!」参道はまるで熊手のトンネル。細い参道の両脇に提灯と裸電球に照らされた縁起熊手がびっしりと飾られている。上の方にある熊手は特別大きく、おそろく一人では抱えられまい。下にいくにつれ熊手は小ぶりに。恥ずかしながら記者は酉の市初体験。当たり前だがテレビで見ると違って幻想的で、江戸の昔にタイム

細い参道は熊手のトンネル

江戸時代から続く年中行事、毎年11月の「酉の日」に行われる酉の市。「福をかっ込む」といわれる開運・商売繁盛のお守り「縁起熊手」が売られ、参道には屋台が立ち並び、酉の市といえば浅草や新宿が有名だが、「巢鴨の酉の市も風情があつていいですよ」との噂を聞きつけ、「二の酉」を訪ねてみた。
(取材・文 岡本杏子)

巢鴨大鳥神社「酉の市」探訪記

今年は一の酉11月8日(木)・二の酉20日(火)

スリッパしたような不思議な感じだ。これを子ども時代に覚えていたらきつと忘れられない原風景になったことだろう。

商売繁盛! ますます繁盛!

揃いのほっぴを着た熊手商の方に話を聞いてみた。「酉の市は日付が変わる夜中の12時から始まって24時間やるんですよ。夕べは3時頃まで結構賑やかでね、朝は9時頃からまたお客さんがぼつぼつと増えてきた。熊手の値段は2千円〜15万円位。ご祝儀も入れて30万円以上もの特大サイズを求め人もいるそうだが、



て、これからがまた賑やかになりますよ。そんな話をしている横で次々に熊手が売られていく。買い手に熊手が手渡されると、威勢のいい手締めが始まる。「ンヤンヤンヤン! 商売繁盛! ますます繁盛! 繁盛! 繁盛!」。社のお参り



ようどいい規模。祭りの風情を感じながら人疲れすることなく楽しめ

巢鴨大鳥神社(文京区千石4丁目25-15 ☎03-4617-0927)
貞享5年(1688年)に巢鴨稻荷社として創祀。初めて「酉の市」が立ったのは元治元年(1864年)と伝えられ、第二次大戦で途切れたものの、近年は再びに賑わいをみせている。

江戸自慢三十六興 三代豊国
二代広重「酉の丁 名物くまで」
元治元年(1864)



今話題の新刊を抽選で合計20名様にプレゼント!

ASAHI BOOK PRESENT



この君なくば

葉室麟著

定価1680円

10名様に

直木賞受賞作家の長編時代小説。五代藩士の桶瀬譲と葉は互いに引かれ合う仲だが、譲は藩主の密命を帯びて京の政情を探ることに。激動の幕末維新を背景に、懸念に生きる男女の清澄な思いを描く。

【応募方法】〒住所、氏名、年齢、電話番号、書名1点を明記の上、はがきでT104-8011(所番地不変)朝日新聞出版販売部宣伝課「シニシニ」係へご応募ください。2012年12月31日(月)消印有効、13年1月上旬発送。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※お送りいただいたはがきで皆さまから提供された個人情報、厳重な管理の下、朝日新聞出版の商品紹介に利用させていただきます。



「がん初心者」の今さら聞けない324の疑問や質問を、Q&A形式でわかりやすく解説。がん医療の基本的なことを紹介し、専門書を読む前に役立つ一冊。全国のがん拠点病院、専門医のリストも充実。

定価880円

10名様に